

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者 の意見	
安心・安全な学校づくり	【環境課】 地域や行政と連携した避難訓練を実施し、防災対策の充実を図る。	<p>評価指標</p> <p>①大規模災害に備えて地域と合同の避難訓練を1回以上実施する。</p> <p>②地震・火災・土砂災害の防災訓練を年4回以上実施し、事後アンケート結果を元に見直しが必要な箇所については、その都度話し合い、結果を全体に周知する。</p> <p>③防災について生徒主体で行える活動(消火訓練、起震車体験、防災食の調理試食等)を2回以上計画実施する。</p> <p>活動計画</p> <p>①地域の役場や隣接する施設と連携して合同の避難訓練を計画・実施する。(9月)</p> <p>②年4回の避難訓練を計画・実施・事後アンケートを行う。 (5.9.11.2月)</p> <p>③課会で本年度行う活動を決定する。関係機関等と連絡を取り合いながら計画実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①9月1日防災の日に美波町一斉での避難訓練を実施することができた。</p> <p>②避難訓練を年4回実施することができた。事後アンケート結果から課会等で話し合い、改善した点について職員会議でその都度全体に周知することができた。</p> <p>③11月に消火訓練、1月に起震車体験を実施することができた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①9月1日防災の日に美波町一斉での避難訓練で、隣接する施設とも事前連絡を行って実施することができた。</p> <p>②年4回(5.9.11.2月)避難訓練を計画・実施後、事後アンケートを行い、その都度話し合いを持ち、変更点などの全体周知を行った。</p> <p>③11月に美波町消防団ご指導のもと消火訓練を行い、1月に起震車体験を行った。</p>	<p>総合評価 (評定)</p> <p>A</p> <p>今年度は避難訓練での教員の動きの改善を行った。有事の際にひとりひとりが自主的に判断し動けるように、引き続き訓練を行うことが必要だと感じた。</p>	<p>計画に沿って、取り組むことができていた。しかし、災害は想定外のことも起こりうる。特別支援学校に在籍する児童生徒は、どのような行動をするかわからない。いつも慣れている教員が対応できるとも限らない。それらに備えて、児童生徒の対応について、教員間で共有しておき、不測の事態に備えていく必要がある。また、災害に備えて校舎内のどこが安全でどこが危険かも日ごろから把握しておくべきである。</p>
多様性を育むキャリア教育の展開	【小中学部】 学習活動や作業課題を通して、個々のできることを積み上げる(ボトムアップ)と共に、将来に向けて必要なスキルを身につけるため(トップダウン)の指導を充実させる。	<p>評価指標</p> <p>① 個別の教育支援計画(支援計画表)及び個別の指導計画(本人の夢・保護者の願い・卒業時まで身に付けてほしい力)の将来に向けてのニーズを把握し、それに基づいた年間目標(まなぶ・はたらく)を各児童生徒につき5個以上設定する。</p> <p>② 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の将来に向けてのニーズに基づく目標(上記①)が「達成」または「ほぼ達成」となる目標の割合が学部全体で70%以上となる。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 保護者懇談等で保護者や本人の将来に向けてのニーズを聞き取り、個別の教育支援計画(支援計画表)に反映させる。(4月)</p> <p>①-2 個別の教育支援計画を基にし、さらに担任のニーズを盛り込むことで個別の指導計画(ニーズの欄、及び卒業時まで身に付けてほしい力)を作成する。(4月)</p> <p>①-3 個別の指導計画に関するケース会で将来に向けてのニーズとそれに応じた目標を確認し、共有する。(5月)</p> <p>②-1 指導の経過について、進捗状況等を見直しケース会等で報告し、指導について検討したり共通理解を図ったりする。(7・12月)</p> <p>②-2 設定した目標に対する評価を行う。(2~3月)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 左記に基づく各児童生徒の年間目標を5個以上設定することができた。 児童生徒5名:各個人5~9個 5名合計目標:36個</p> <p>② 左記に基づく設定した年間目標全36個のうち、34個が達成となり、学部全体の達成率は94%であった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 個別の教育支援計画(支援計画表)に反映させるために保護者懇談等で保護者や本人の将来に向けてのニーズを聞き取りを行った。</p> <p>①-2 聞き取った本人、保護者のニーズ、及び児童生徒の実態に応じた担任のニーズを盛り込み、個別の指導計画を作成した。</p> <p>①-3 個別の指導計画年間目標、及び前期目標のケース会を5月(5/8、9、10)に、前期目標の評価、及び後期目標のケース会を9月(9/5、6、8)に実施し、学部内で共有した。</p> <p>②-1 前期後期で、それぞれ1回ずつ見直しケース会を実施することで、指導内容の共有や達成度の確認を行った。</p> <p>②-2 学期目標、年間目標における評価を実施した。</p>	<p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見) 個別の指導計画の年間目標「まなぶ・はたらく」の項目に、保護者等のニーズに基づいた標を小中学部5名全員が5個以上立案することができた。各担任が、ニーズを受け止め、保護者等の意向に添った個別の指導計画の作成ができたと推定される。 また、その指導の達成度は、全36個の目標のうち34個が達成し、達成率は94%であった。小学部の目標達成率は100%(15/15個)であり、ボトムアップ的な目標をスモールステップで計画できたと考えられる。中学部においても、目標達成率は83.8</p>	<p>児童生徒への指導・支援については、きめ細かく一人一人に応じて工夫して行われている。今後も継続して行ってほしい。 特別支援学校でより専門的な指導を受けた方がよい児童生徒が地域の小・中・高等学校に在籍している。ひわさ分校は障がい重い子どもが通う学校というイメージがあるが、軽度の子どものたちがいることや高等部卒業後の進路先についても情報発信していき、それらを払拭していくべきである。 小中学部は、生活年齢や実態も様々であるため、「学習指導や作業課題を通しての児童生徒の成長のための指導の充実」をキーワードにして取り組んできた。「指導の充実」とは、「個別の指導計画が適確に立案、遂行できている」ということに関係する。 今年度の取組では年間目標「まなぶ・はたらく」の項目をターゲットにしたが、今後の課題として、本当に適切な指導目標が立案できていたか、他の領域の目標(くらす・たのしむ)も同じように達成することができたか、という2点が課題として挙げられる。 目標達成率としては94%と高かったが、目標によっては「本当に指導が必要な目標だったのか」という疑問も残る。そのため、年度始めの指導開始時に十分な実態把握の時間が必要となる。 また、他の領域(くらす・たのしむ)については長期的な</p>

			% (31/37個)と高く、ニーズに基づいた目標を課題分析し、達成可能な目標を立案することができたと思われる。	指導の継続を必要とする目標もあり、より目標を細かく具体的にする必要はある。 このように、「個別の指導計画の適確な立案と遂行」のためには教員の専門性の向上が不可欠である。「個別の指導計画ケース会」や「見直しケース会」だけでなく、普段から児童生徒の指導に対して相談し合える学部をめざしていきたい。
【高等部】 卒業後の生活を見据え、基本的なコミュニケーションスキル(あいさつ・返事・報告・支援要求等)を身につける。	<p>評価指標</p> <p>① 個別の指導計画作成において、前期目標もしくは後期目標にコミュニケーションに関する目標を一人につき1個程度設定し、その評価が「達成」「ほぼ達成」となる割合が、60%以上となる。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 個別の指導計画の学期目標にコミュニケーションに関する目標を設定する。(5月・9月)</p> <p>①-2 個別の指導計画の前期目標・後期目標ケース会において、目標と手だてについての情報を共有する。(5月・10月)</p> <p>①-3 学部会での生徒の状況報告の際に、指導の進捗状況や指導について検討したり、共通理解を図ったりする。</p> <p>①-4 年度末に目標の評価を行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 個別の指導計画作成において、前期目標もしくは後期目標にコミュニケーションに関する目標を一人1個～5個設定することができた。高等部13名で55個の目標が設定されており、その評価について「達成」「ほぼ達成」となる割合が、94%であった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 個別の指導計画の学期目標に、保護者からのニーズやそれぞれの生徒の実態に応じて、コミュニケーションに関する目標を設定することができた。</p> <p>①-2 前期目標ケース会、後期目標ケース会において、それぞれの生徒の目標と手だてについて、共通理解を図ることができた。</p> <p>①-3 月2回の学部会において、生徒の状況報告を行い、生徒の学習面や生活面において、配慮事項や指導についての情報共有を図ることができた。</p> <p>①-4 卒業生については、2月中旬に評価を行った。在校生については、3月初旬に評価した。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>個別の指導計画の目標立案時にコミュニケーションに関する目標を設定するよう学部内で周知することで、前期目標もしくは後期目標にすべての生徒において設定することができた。前期評価において、指導継続であった目標について後期に手だてを見直して継続して実施したことにより、「達成」「ほぼ達成」となった割合が高くなったと考えられる。</p>	【小中学部】と同じ 高等部は、学校卒業後の生活を考え、個々の生徒に応じて必要となるスキル獲得を目標として個別の指導計画を作成している。 生徒の実態により、課題や必要となるスキルは異なるが、卒業後の生活について考えると、コミュニケーション面のスキル獲得や向上が重要だと考える。コミュニケーションといっても、挨拶・返事・報告・連絡・相談・質問等々いろいろある。言葉遣いや声の大きさ、伝え方など、ほとんどの生徒において課題がある。またコミュニケーションに関する生徒への指導とあわせて、教員の言葉遣いについても気を付けることを周知しなければならない。 今後も、個別の指導計画の目標として継続してコミュニケーションに関する目標を設定して取り組んでいく必要がある。
【教務課】 卒業後の生活を見据え、指導内容の精選を行うため、教育課程の実施状況を見直し、改善につなげる。	<p>評価指標</p> <p>① それぞれの教育課程において、年間4回の検討を行う。(教務課会2回・学部会2回)</p> <p>② 年度末に行う検討に向けて、全教員を対象としたアンケートを実施する。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 教務課会で各学部ごとの教育課程について、見直しを実施する。(6月)</p> <p>①-2 教務課会で見直したことを、学部会で議題として提案し、検討を行う。(7月)</p> <p>①-3 教務課会で各学部ごとの教育課程についての見直しと、アンケート内容についての検討を実施する。(1月)</p> <p>①-4 教務課会で見直したことと、アンケート結果を基に、学部会で検討を行い、今後の教育課程に反映する。(3月)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 教務課会においては6月と1月、学部会においては7月に検討を行った。 3月の学部会で、来年度に向けた教育課程の最終検討を行った。</p> <p>② 年度末に行う検討に向けて、2月6日にアンケートを配付した。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 教務課会で、各学部における教育課程を見直した。高等部の「重複A」において、「職業」を1時間新設し、「自立活動」を1時間減らすこととなった。</p> <p>①-2 上記の内容を学部会で協議し、令和6年度より実施することとなった。</p> <p>①-3 各学部のアンケートを見比べて、小中学部のアンケートを、高等部の内容に統一するよう改善した。教育課程について、更なる変更点の案はなかった。</p> <p>①-4 3月に実施予定である。</p>	<p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>年度当初に活動計画を立てたことで、教育課程について課会で話し合ったことを、学部会で協議するという流れをスムーズに実施することができた。 アンケートについては、今まで各学部の様式を活用していて、見比べたことがなかった。今年度検討の機会を設定し、改善につながり良かった。</p>	特別支援学校は、レベルの低い勉強をしているというイメージを地域の方は持っているが、ICTの活用も進んでおり、ICTを使った難しい学習もしていることがよくわかった。 また、ビルメンテナンスなど就労につながる技術も丁寧に指導され、検定なども受けている。その点を今後も充実させてほしい。 次年度への課題は、今年度検討した各学部の教育課程を、ひわさ分校の児童生徒の実態に合うように、曜日ごとの時間割に反映することである。 今後の方策としては、入学生の実態も合わせた全児童生徒が、意欲的に学習できるための時間割を考え、設定することである。

<p>② 全教員を対象としたアンケートを実施し、結果を集計する。(2月)</p> <p>【進路課】 児童生徒一人ひとりの自尊感情の向上、支援を受けながらの自立を目指したキャリア教育(教育活動)の実践を行う。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 就労希望形態別の学習を年に10回以上行う。</p> <p>② 中学部の「はたらく体験学習」の事前学習において、高等部の就業体験の意義や学校卒業後の働き方についての学習を行う。</p> <p>③ 児童生徒の自尊感情を高めるために「命の大切さ」を学ぶ授業を1回以上行う。</p> <p>④ 人権教育に関する資料を教員に年3回以上配付する。</p> <p>活動計画</p> <p>① 生徒、保護者からの進路希望から就労形態別に学習グループを編成する。「職業」の時間を主として学習を行い、進路先ごとに必要とされているニーズの周知を適宜行う。</p> <p>② 高等部の就業体験を見学、体験できる機会を設定する。「はたらく体験学習」の事前学習で、写真や動画を交えて高等部の仕事内容や校外での現場実習の様子を紹介するようにし、仕事へのイメージがもてるようにする。</p> <p>③ 外部講師を招聘し(9月)に実施する。</p> <p>④ 職員会議等の際に人権の出張等で研修した内容を伝達したり、資料等を配付したりする。</p>	<p>② 2月初旬に配付したアンケートを、下旬に集計を行った。</p> <p>評価指標の達成度</p> <p>① 就労形態別の学習を10回以上実施することができた。1月末時点で15回実施した。</p> <p>② 中学部「はたらく体験学習」の一環として、進路担当より話をする機会を1回設定することができた。</p> <p>③ 11月22日に徳島県助産師会、小島泰代氏を招聘し「いのちの授業」と題して、「こころとからだの学習」の授業を行った。</p> <p>④ 研修会資料の配付や回覧を3回以上することができた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>① 就労形態別に4つのグループに分けて授業を行うことができた。希望する進路先に応じて、施設、事業所と話をした内容を周知することができた。</p> <p>② 中学部へ呼びかけ、前期就業体験で見学、後期就業体験時に見学と体験をできる機会を設定することができた。また、「はたらく体験学習」の事前学習において、現高等部生徒の実習内容を中心に現場実習や仕事の様子を紹介することができた。</p> <p>③ 「こころとからだの学習」の授業には、中学部生2名、高等部生11名が参加した。「命の誕生」「性的人権」「自分の命はかけがいのないもの」等のお話をいただいた。生徒は「命の大切さ」を考える良い機会となった。</p> <p>④ 年間を通して研修会資料の配付や回覧を行った。人権だよりについては職員会議(2/15)に報告した。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>高等部生徒の進路指導では、希望している就労形態別にグループ編成を行い学習を進めたことで、それぞれの生徒の卒業後の生活や現状の課題に沿った指導を行うことができた。</p> <p>人権教育については、生徒を対象とした「こころとからだの学習」以外にも、PTA人権研修で徳島県人権教育指導員の井上明美氏を招いて「命(いのち)の安全教育」と題して研修を行い、保護者、教員にとって大変勉強になった。</p>	<p>特別支援学校では、就業体験など就労に直接つながる学習ができる。そのような教育課程で学習した方がよい生徒が地域の学校に進学している。地域の学校では、適応できず困っているケースもある。就労先に応じた学習や体験ができていないことをもっとアピールしてほしい。</p>	<p>進路指導については、今年度、ホームページを活用し進路情報の発信を行うことができてきた。昨年度までに比べ大きく更新頻度を向上することができ、学校の進路指導の取組を紹介することができた。進路情報として施設や事業所等、進路先の情報、卒業した後の仕事や生活の内容を取り上げることで、進路のイメージを持ちやすくなるため、次年度は取り上げて紹介できるようにしていきたい。</p> <p>人権教育については、人権研修会への参加を推奨し、資料回覧や内容等の報告の充実を図る。また、数年ぶりに再開された、「みなみ・にこにこ人権フェスティバル」に、次年度も生徒会役員を中心に参加し、地域への理解啓発の機会ともしていきたい。</p>
<p>【支援課】 個別の事例において、児童生徒の実態に応じた指導支援を行うために、専門家による指導や助言を受けるとともに、校内での共通理解を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 社会人講師による指導助言の内容について、各学部会での報告の割合が70%以上となる。</p> <p>②-1 学校コンサルテーション事業において各学部1事例以上取り組み、校内事例検討会を各学部3回以上行う。</p> <p>②-2 学校コンサルテーション事業に関する実施報告を、職員会議で1回以上行う。</p> <p>活動計画</p> <p>① 社会人講師(PT・OT・ST)の指導を受ける機会を設定し、指導後は学部会で指導内容を報告する。 PTによる指導:年間3回 OTによる指導:年間3回 STによる指導:年間3回</p> <p>②-1 1回目のコンサルテーションまでに1回以上、1回目から2回目の期間で2回以上の校内事例検討会を実施する。</p> <p>②-2 指導助言に関する内容や、実践を通しての成果についてまとめ、報告・共有を行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 各学部会における報告の割合は次の通りであった。 PT:100%…高 3回/3回 OT:100%…小中 3回/3回、高 3回/3回 ST:100%…小中 3回/3回、高 3回/3回</p> <p>②-1 小中学部1事例、高等部1事例に取り組んだ。事例検討会の回数は、小中学部1回、高等部2回であった。</p> <p>②-2 年度末の職員会議で実施報告を1回行った。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>① PTによる指導[計3回](6/6 9/12 1/16) OTによる指導[計3回](6/27 9/19 1/23) STによる指導[計3回](7/4 10/17 1/30) 実施した。 その後指導を受けた内容を学部会で共有した。</p> <p>②-1 校内事例検討会をコンサルテーション1回目までに小中1回・高1回、1回目~2回目の期間に高1回実施した。</p> <p>②-2 実践を通しての成果をグラフ等で数値化してまとめ、校内で報告・共有を行った。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>社会人講師(PT・OT・ST)による指導を計画通り実施することができた。学部会で指導助言の内容を共有することにより、学部全体での児童生徒の実態把握や指導方法の統一にも繋がったと思われる。</p> <p>学校コンサルテーションでは小学部1事例、高等部1事例の実践研究を行った。校内事例検討会の回数は評価指標を下回ったが、小学部の事例は学部研修として、高等部の事例は全体研修としてコンサルテーションを実施したことで、校内の多くの教員に向けて共通理解を図ることができた。</p>	<p>社会人講師等の指導により、より専門的な指導を受けることができてきた。今後も継続して実施してほしい。また、校内で共有することで教員の専門性の向上にもつながっている。</p>	<p>社会人講師(PT・OT・ST)の指導においては、校内からのニーズが少なく、1回の来校につき1事例あたりの指導時間が長くなるケースが見られた。次年度における本校の児童生徒の実態を踏まえると、事例件数増加の見込みは低いと思われる。よって児童生徒の課題を絞り、次年度からはOT・STによる指導を年間3回ずつで計画している。</p> <p>学校コンサルテーションでは、2事例の指導に関してアドバイスを受けた。指導実践者のみならず、学部内の教員全員で指導方法を具体的に共有して実践することで、対象生徒の行動の改善へと繋がった。次年度も事例研究を行うことで、教員の専門性の向上をめざしつつ、学部やチーム単位で指導にあたることの重要性を再確認する機会とした。</p>
<p>【環境課】 ICT機器を活用した</p>	<p>評価指標</p> <p>① タブレット等を使い、パソコン検定やとくしま技能検</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 関係の授業担当者を中心に計画的に授業を実施し</p>	<p>(評定)</p>	<p>第1回学校運営協議会でホームページ</p>	<p>情報社会を生き抜く上で、ICT機器を使えるだけでなく、</p>

	<p>教育の推進を図るために、タブレットを使った授業の促進や情報モラルに関する教育活動を進める。</p>	<p>定に向けて計画的に授業を行う。</p> <p>② 長期休業中にリモート授業を年2回以上計画・実施する。</p> <p>③ 情報モラルに関する教材や動画のリストアップを作成し、全教員へ年1回以上広報する。</p> <p>④ タブレットを使った授業等の中で、生徒へ情報モラルを盛り込んだ話を全教員年1回以上行う。年度末の情報モラルアンケートで全教員の6割以上が実施したと回答できる。</p> <p>活動計画</p> <p>① タブレット等を使い、パソコン検定やとくしま技能検定に向けて計画的に授業を行う。</p> <p>② 長期休業中にリモート授業を年2回以上実施する。</p> <p>③ 情報モラルに関する教材の収集等を行い、適宜全教員へ教材の案内や実施の声かけをする。</p> <p>④ ③の広報や定期的に生徒へ情報モラルについて話を行うように教員へ働きかけを行う。年度末に実施したかアンケートを行う。</p>	<p>た。</p> <p>② 夏季休業中に高等部2回、小中学部1回、冬季休業中に小中学部1回計画・実施した。</p> <p>③ 夏季休業前後で情報モラルについてアナウンスを行った。1月に職員会議にて、学習指導要領における「情報モラル」についての説明と、授業に使えるサイトの紹介を行った。</p> <p>④ 1月末にアンケートを実施し、年1回以上の授業を7割以上の教員が実施したとの回答だった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>① パソコン検定など関係の授業担当者を中心に計画的に授業を実施した。</p> <p>② 夏季休業中に高等部2回、小中学部1回、冬季休業中に小中学部1回計画・実施した。</p> <p>③ 夏季休業前後と1月の職員会議で全体に案内を行った。</p> <p>④ 夏季休業前後と1月の職員会議で全体に授業で使えるサイトの案内と、授業を行ってできるように働きかけを行った。1月末にアンケートを行った。</p>	<p>B</p> <p>(所見)</p> <p>リモート授業に関しては全教員がT1として実施できるようになったと感じている。情報モラル教育についても全体の7割以上の教員が実施したと回答だった。パソコン検定については、入力等の検定を行った。将来の進路を見据えて生徒にに応じて実施していく時間が必要である。</p>	<p>の充実を提案したが、よく改善されている。とても見やすく、更新回数も多く、学校の様子がよくわかる。生徒が投稿している記事もあり、地域への発信につながる。今後、ひわさ分校を紹介するときにも活用していきたい。</p>	<p>その弊害についても授業で取り組む必要を感じる。パソコン検定については、入力等の検定を行った。将来の進路を見据えて生徒に応じて実施していく時間が必要である。</p>
<p>地域とともにある学校づくり</p>	<p>【小中学部】 校外学習や交流及び共同学習を充実させることで、本校児童生徒の活動経験を広げると共に、地域への理解啓発を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>① クラス及び学部での校外学習を年間5回以上実施する。</p> <p>② 交流及び共同学習を4校(日和佐小学校・日和佐中学校・牟岐中学校・阿南支援学校)に対して、年間5回以上実施する。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 B&G体験活動や宿泊学習を計画・実施する。(7月)</p> <p>①-2 作業学習での工賃をおこづかいとして、美波町内への買い物学習を実施する。(適宜)</p> <p>①-3 校外での清掃活動や工場(森ハンカチーフ)見学を計画・実施する。(後期)</p> <p>①-4 お別れ遠足で、郡外(徳島市)への校外学習を計画・実施する。(2月)</p> <p>②-1 交流及び共同学習の担当者同士の事前打ち合わせを行い、当日の活動や両校児童生徒の関わりがスムーズで適切に行われるようにする。</p> <p>②-2 交流及び共同学習の当日の活動において、両校児童生徒がスムーズに関われ、成功体験を積むことができるように、支援学校教員が積極的に支援する。</p> <p>②-3 交流及び共同学習の事後学習で、相手校に手紙を書いて送る等の活動を取り入れ、活動のまとめをしたり、次年度の交流に繋げたりする。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 学部での校外学習を年間6回実施した。 買い物(6/1・2/29)、B&G体験活動(7/18)、町内校外学習(10/11)、森ハンカチーフ見学(1/23)、お別れ遠足(2/22)、竜宮公園活動(3/1)</p> <p>② 4校に対して、交流及び共同学習を5回実施した。 日和佐小学校…1回(6/28) 日和佐中学校…1回(11/20) 牟岐中学校…2回(5/27・7/14) 阿南支援学校…1回(7/6)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 B&G体験活動、及び同日に宿泊学習を計画・実施した。(7/18・19)</p> <p>①-2 「はたらく体験学習」での工賃で事後学習の飲み物を校内の自動販売機で購入した(校外学習は未実施)。作業学習(リサイクル)の工賃で年度末に買い物学習を実施した。(2/29)</p> <p>①-3 校外での清掃活動として、カーブミラー・看板の清掃を実施した(4/18)。また、工場見学(森ハンカチーフ)を計画・実施した。(1/23)</p> <p>①-4 お別れ遠足で、徳島市内への校外学習を計画・実施した。(2/22)</p> <p>②-1 交流及び共同学習実施前に各校(4校)に本校担当者が伺い、児童生徒の実態の共有や特性等に合わせた活動内容の打ち合わせを行った。</p> <p>②-2 相手校児童生徒にも積極的に話しかけたり、本校児童生徒の気持ちを代弁したりすることで、スムーズな交流を支援した。</p> <p>②-3 日和佐小学校・牟岐中学校・阿南支援学校(小学部)へのメッセージを書いて送った。阿南支援学校(中学部)とは、Zoomを活用してオンラインで両校生徒が対面し、事後学習を行った。日和佐小学校との交流では、生徒がホームページの記事を作成し、活動のまとめを行った。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>小中学部は6回の校外学習を計画・実施した。学校全体の行事(お接待活動(10/20)や阿波ふうど号イベント(11/22)では、町内中心部に活動し、地域へ本校児童生徒の理解啓発を図ることができた。交流及び共同学習では、年度当初に計画していた4校を交流校として、のべ5回実施することができた。本校に相手校児童生徒が来校しての交流は日和佐小学校との交流1回のみであったが、5回の交流全てにおいてスムーズに実施することができた。児童生徒同士の事前学習は難しかったが、事後学習では手紙や写真を送り合う等の間接的な交流を各校で行うことができた。</p>	<p>地元の学校との交流は、今後も是非とも継続して行ってほしい。特別支援学校に入学したら地元と関わりがなくなる。地域に〇〇くんがいることを知ってもらうことは、災害時にも助けてもらえることにもつながる。交流校の児童も交流を楽しみにしていた。将来、福祉の仕事を考えている児童もいた。交流を通じてお互いの学びになっている。ひわさ分校の生徒が地元のイベントに参加している様子を見かけたが、サポートが必要だった子どもが自主的に活動できている様子を見て、成長を感じた。ひわさ分校は、通学手段が公共の交通機関しかないことがデメリットだったが、昨年度から通学タクシーができて解消された。そのこともアピールしてほしい。通学タクシーが那賀方面にも運行できるようになるといい。</p>	<p>「地域への校外学習」と「交流及び共同学習」を今年度も継続して積極的に進めた。校外学習計画時には、単に「ひわさ分校の子どもたちが楽しいことをしている」のではなく、「学習の意義」を持っているという目的を明確にし、「頑張っている姿を見てもらえる」という活動内容も盛り込むことが重要になる。また、今年度新たな活動として、「株式会社 森ハンカチーフ工場見学」を計画・実施した。同じ地域の企業を訪問することは、本校生徒のも学びになっただけでなく、本校の理解啓発にも繋がった。同じ地区で生活する者として知ってもらうことは、被災時の備えにもつながるため、今後も積極的に地域での活動を継続していきたい。交流及び共同学習では、当日はスムーズに活動を行うことができ、児童生徒の実態に合わせて交流相手に関わったり、活動を共有したりすることができた。しかし、学校間交流(日和佐小・中学校)では、相手校の児童生徒にとって「学び」が弱く、1つの行事として終わっていないか、正確に本校児童生徒のことを理解してもらえたかどうか心配である。今後は、交流及び共同学習の設定の仕方や事前学習を見直す必要がある。例えば、</p>

				本校教員が相手校の事前学習でゲストティーチャーとして参加し、本校児童生徒のことを直接伝えることや、相手校の児童生徒が本校の児童生徒の実態に応じた内容を考える等の相手校の主体性を引き出す学校間交流を推進していきたいと考える。 阿南支援学校との交流では、今年度初めて小学部との交流及び共同学習も実施した。クラス単位という小さい集団での活動で、より深く、密な交流ができたと思われる。また、中学部との交流においても、他の支援学校での授業内容を体験できる等、本校にとっては大変よい経験ができた。今後も継続して行うには、移動に伴う予算確保等の検討が必要となる。Zoomを活用したオンラインでの交流や作品展示による交流等、間接的な交流も来年度以降に実施できればよいと考える。
【高等部】 地域貢献活動を通して、社会性を養い、継続して地域とのつながりを持ち、地域への理解啓発につなげる。	<p>評価指標</p> <p>① 地域貢献活動を年間4回実施する。 (6月、10月、12月、1月)</p> <p>② 地域貢献活動の活動内容について、生徒と一緒に考える機会を設定する。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 地域の施設に作業学習で栽培した花のプランターを置く活動を行う。また薬王寺において、清掃活動を年間2回実施する。(6月、12月)</p> <p>①-2 薬王寺において、お接待活動を年間1回行う。作業学習等で制作した作品を配布し、分校のPRを行う。(10月)</p> <p>①-3 作業学習において、花の苗を栽培し、地域の小中学校に配布する。分校の活動の様子を伝えるポスターを作成し、花の苗を手渡す。(1月)</p> <p>② 第2回目実施に向けて、活動内容等について、生徒と一緒に検討する機会を設定する。(アンケート、話し合い)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 6月…公民館、道の駅日和佐に花のプランター設置、薬王寺駐車場の清掃活動 10月…全校でのお接待活動において、薬王寺の清掃活動 12月…公民館、道の駅日和佐に花のプランター設置、道の駅での清掃活動 1月…日和佐こども園に花の苗贈呈</p> <p>② 6月の活動実施後に、生徒に活動の振り返りと今後の活動についてアンケートを実施した。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 6月、10月に薬王寺駐車場、薬王寺敷地内の清掃活動を実施した。(6/27、12/19に実施)</p> <p>①-2 薬王寺において、お接待活動を実施した。当日お遍路さんに作業学習で制作した作品を手渡し、PRすることができた。(10/20に実施)</p> <p>①-3 作業学習において、花の苗の栽培管理等を行うことができた。栽培した花の苗を日和佐こども園に贈呈することができた。(1/19に実施)</p> <p>② 第1回目実施後、生徒に活動の振り返りと次回の活動についてアンケートを実施した。その後、第2回目実施に向けて話し合いを行い、生徒の意見をもとに実施内容を決定し、実施した。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>年度初めの計画通り実施することができた。昨年度の課題であった、地域貢献活動の内容について、生徒が主体的に活動できるようにという点においては、生徒と一緒に振り返りを行い、第2回目実施に向けて話し合いを行い、生徒の意見を反映した活動内容で実施できたことはよかった。</p>	<p>地域貢献活動は、もっと回数を増やしてもいいのではないか。生徒が地域で活躍する姿を見せることで、地域への理解啓発にもつながる。</p> <p>学部での地域貢献活動も定着してきた。活動内容や実施場所においては、毎年同じ内容・場所になっている。今年度は、昨年度の課題にあげた、生徒が主体的に活動できるように、生徒と一緒に検討することができ、活動内容を見直すことができた。ただ、6月の実施内容と場所、12月の実施場所については、毎年同じとなっているため、今後は、実施内容や実施場所について、学部内での検討が必要であると思う。また生徒と一緒に考える機会も設定し、生徒が主体的に活動し、分校高等部の活動の様子を見てもらうことで、PRにつながるようにしたいと考える。</p>
【支援課】 特別支援教育巡回相談員活動等を通して、地域のセンター的機能を充実させるとともに、本校の教育活動についてアピールする場を増やす。	<p>評価指標</p> <p>① 特別支援教育巡回相談員活動において、就学・進学に関わる相談が昨年度(2件)より増える。</p> <p>② 特別支援教育巡回相談員活動において、保護者面談や地域連携協議会で5回以上本校の概要説明を行う。</p> <p>③ 地域の教員や保護者、関係機関の方が50名以上参加する公開研修会等を計画する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 特別支援教育巡回相談員活動での就学・進学に関わる相談件数は2件であった。</p> <p>② 地域連携協議会等で本校の概要説明を4回行った。</p> <p>③ 「地域まるごと専門性向上」事業公開研修会では、来校とリモートのハイブリット形式で行い、校外からの参加者は107名であった。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>特別支援教育巡回相談員活動を通して、本校への就学・進学に関わる保護者との教育相</p>	<p>巡回相談活動で、ひわさ分校の紹介をすることは、学校の様子も少しも理解してもらい機会となっている。もっとたくさんそのような情報発信をしてほしい。</p> <p>例えば、中学校で</p> <p>今年度は本校への就学・進学に直接関わる相談件数は増加しなかったが、引き続き巡回相談員活動を通して地域のコーディネーターとの連携を深めて保護者と繋がり、就学・進学する児童生徒数の増加を図りたい。</p> <p>地域連携協議会や保護者</p>

	<p>④ホームページでの研修案内・報告を充実させること(更新3回以上)で、地域の方のホームページの閲覧機会を増やし、本校の教育活動について知ってもらうことに繋げる。</p> <p>活動計画</p> <p>①広報活動等において、地域の特別支援教育コーディネーターと連携し、就学・進路先で悩んでいる保護者と繋ぐ。</p> <p>②学校の紹介を行う際に、パワーポイントのスライドを活用し、地域の先生や保護者に観せる。</p> <p>③案内チラシの配布や地域の連携協議会等での広報を積極的に行う。</p> <p>④特別支援教育公開研修会の申し込み、及び事後アンケートの専用フォームを、本校のホームページ上に作成する。</p>	<p>④ホームページでの研修案内・報告を1回ずつ行い、更新回数は2回であった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①年度始めの広報活動を通し、地域のコーディネーターや特別支援教育担当者等との顔つなぎを行い、連携を図った。</p> <p>②美波町の連携協議会で1回、保護者面談で1回、研修会で2回、それぞれパワーポイントのスライドを活用し、学校の紹介を行った。</p> <p>③公開研修会に関する案内チラシの配布や広報を、教育関係者や各関係機関に積極的に行った。</p> <p>④本校のホームページ上に公開研修会の専用フォームを作成することで、閲覧機会の増加とともに、本校の教育活動の広報を図った。</p>	<p>談を行うことができた。</p> <p>公開研修会においては、来校とリモートのハイブリット形式で研修を計画・実施することで、地域の教育関係者等に本校の教育環境を直接見てもらいつつ、専門性の向上に繋がる学びの場を提供することができた。</p> <p>またホームページ上に公開研修会の専用フォームを作成することで、ホームページを通して本校の教育活動を広報することができた。</p>	<p>行われる高等学校の説明会にひわさ分校も出向いて学校の紹介や説明をしてみようか。</p> <p>公開研修会に参加した。ひわさ分校の公開研修会は、地域の先生方にとってもよい研修の機会となっている。</p>	<p>面談における本校の概要説明に関しては、児童生徒の教育活動の動画等を資料に加えることで、本校のより詳細な情報を共有することができた。</p> <p>特に動画については好評を得られたため、次年度以降もPR資料の作成に努め、より具体的な広報を行いたい。</p> <p>「地域まるごと専門性向上」事業公開研修会においては、数年ぶりに来校による研修参加の形式を含めたことで、本校に足を運んでもらう貴重な機会となった。ただ郡内の参加者においてもリモートによる参加の割合が多いという課題も残った。次年度はホームページや地域連携協議会等を通し、より積極的に公開研修会に関する広報を行い、来校による参加者の増加へと繋げ、本校の教育活動の理解啓発を行っていききたい。</p>
<p>【生活課】 学校間交流等の交流および共同学習を通して、ひわさ分校の教育活動や児童生徒についての理解啓発を行う。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 地域の人や交流校に対して、本校の教育活動に関する啓発を行い、行事等において交流校の児童生徒等の来校者を増やす取り組みを行う。</p> <p>② 生徒同士が主体的に交流が行えるように、全校集会を通じてコミュニケーションの幅を広げられるような指導を年間2回以上行う。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 交流校の担当者を通じて、お互いの学校の情報交換を行う。(交流月)</p> <p>①-2 ホームページに行事案内や活動の様子の記事を掲載し、年間2回以上更新する。(行事月)</p> <p>①-3 運動会や文化祭のポスターを交流校等に年間2回以上配付する。(行事月)</p> <p>②-1 全校活動や全校集会を通じて、伝える力、聞く力、自他を意識する力を身につける指導を行う。(通年)</p> <p>②-2 交流前に交流校の生徒や活動内容を知ることができるよう事前学習を行う。(交流月)</p> <p>②-3 交流後に事後学習を行い、活動の振り返りを行う。(交流月)</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 地域の人や交流校に対して、本校の教育活動に関する啓発を行い、行事等において交流校の児童生徒等の来校者を増やす取り組みを行う。</p> <p>② 生徒同士が主体的に交流が行えるように、全校集会を通じてコミュニケーションの幅を広げられるような指導を年間2回以上行う。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 交流校との事前打ち合わせや電話、FAXでやりとりをして情報交換を行った。</p> <p>①-2 運動会、文化祭の案内をホームページに掲載し、年間2回以上更新することができた。</p> <p>①-3 ひわさ分校作品展示に協力を得ている関係先に運動会や文化祭のポスターの配付を行った。</p> <p>②-1 全校活動において、ペアやグループに分かれゲームを行い、協力したり競ったりして自他を意識する活動を行った。(4回)</p> <p>②-2 全校集会で、交流校の紹介ビデオを見たり、交流生からのメッセージを紹介したりした。</p> <p>②-3 交流後の全校集会で、活動写真を見ながら振り返りを行った。年度末に交流で学んだことや気を付けることなどの話を行う予定である。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>今年度は、運動会や文化祭を一般公開にし、地域の人や隣接されているばんそうS&Sの利用者の方などに児童生徒の活動の様子を見てもらうことができた。また文化祭では、学校運営協議会委員の方と音楽を通じて児童生徒、地域の人と交流を図ることができた。</p> <p>月1回の全校集会の他に全校活動の時間を設定した。集団で行うゲームやクイズなど学部や学級を越えたかわりをもつことができた。</p>	<p>今年度は運動会や文化祭を一般公開できるようになってよかった。委員の方の協力を得て行ったパフォーマンスも非常によかった。子どもたちも音楽を通じてにとってもよい経験になったと思う。</p> <p>ひわさ分校といえは、これ!というものがあつた方がいい。今後も考えていく必要がある。</p>	<p>今年度は、運動会、文化祭などの行事を一般公開とし学校、家庭、地域が連携し、互いの立場からひわさ分校の教育活動に触れ、すすめていくことができた。</p> <p>交流及び共同学習では、互いの学校を行き来し、演奏会やポッチャ等活動を通じて交流することができた。コロナ禍時の制限がなくなってきたことで、教育活動の幅も広がり学校以外の人たちとかかわることが増え、児童生徒にとっては良い経験につながったように思う。また、様々な人とかかわりが増えることで、人間関係やコミュニケーションに課題を感じる場面も増えた。次年度も引き続き、生徒同士が主体的に交流が行えるように、特別活動を通じてコミュニケーションの幅を広げられるような指導を行っていききたい。また、事前、事後学習において、交流校の児童生徒に対しても本校児童生徒の理解啓発を行っていききたい。</p>

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった

※様式はA3で作成しています。本様式を使用する場合は、PDFファイルにするときに、縮小印刷でA4単票・横方向にしてください。